

令和6年度 | 2024 教員・職員 (FD・SD) 活動報告書

郡山女子大学 | 郡山女子大学短期大学部

2025年6月
学園教育充実研究会

目 次

I 全授業公開 __4

II 学園教育充実研究会[大会]

テーマ「AI時代における高等教育の取り組みと可能性」 __5

主催:学園教育充実研究会 協力:数理・データサイエンス・AI教育推進委員会

■第1部 基調講演

■第2部 FD・SD部門別研修会

III 各種研修会 __12

1. 大学 家政学部 食物栄養学科 主催

第1回 学科セミナー「アミノ酸の機能性」

2. ハラスメント防止委員会 主催

ハラスメント防止研修会「学園全体におけるハラスメント防止について」

3. 大学 家政学部 生活科学科 主催

市民講座「暮らしの1ページ」

福祉「はじめてみませんか『人生会議(ACP)』 -最後まで自分らしく生きるために-」

教育「福島県立矢吹原修錬農場創立期の教育理念とその現実」

建築「地震と建築物 -地震災害を考える-」

4. 教務部・不正防止委員会 共催

学内科研費説明会(資料熟読)

① 科研費について(教務部)

② 研究倫理教育受講(不正防止委員会)

5. 衛生委員会 主催

教職員に対する心の健康問題に関する研修会

「-向き合う/備える/つながる- 揺れる時代を生きる私たちへのメンタルヘルス」

6. 学園教育充実研究会・福島県 共催

FD/SD研修会「Start upセミナー ~アイデアをカタチにする企業のいろは~」

7. 大学 家政学部 食物栄養学科 主催

第2回 学科セミナー「ルワンダにおける児童参加型保育教育の試み

-災害多発地域を中心とした国際プロジェクト×児童参加型の保育教育の展開-

8. 学園教育充実研究会・スポーツ栄養研究所 共催

SD研修会「スポーツ栄養研究所」とのコラボによる事務局職員健康改善研修会

~デスクワークに疲れたあなたの体を再活性化!~

9. 障がい学生支援委員会・学生生活部 共催

障がい学生支援研修会「私立大学・短期大学における障がい学生支援」

10. 大学 家政学部 食物栄養学科 主催

第3回 学科セミナー「現在の取り組みについて~花酵母の探索と管理栄養士用生成AI~」

11. スポーツ栄養研究所 主催

第1回スポーツ栄養セミナー「スポーツと栄養」

12. 学園教育充実研究会 主催

SD研修会「業務に活用できる生成AI講習会」

13. 短期大学部 幼児教育学科 主催

学科セミナー 第一部「北欧保育調査報告2025 ～ノルウェー・イギリスの保育～」

「園庭の魅力と可能性を再考する」

第二部「現役保育者との交流～保育現場の今～」

IV 事務局職員 外部研修参加記録 __27

総務部・経理部・管財部・入学事務広報部・教務部・学生生活部・就職部・図書館・附属高等学校

I 全授業公開

全授業公開は、開講する全ての授業を教員や職員に公開するものである。昨年度はコロナ感染拡大防止の観点から、所属の学科の授業のみ参観としたが、今年度は、通常公開に戻し、さらに前期・後期、それぞれの時期に全授業公開を実施した。

I. 背景と目的

全教員の授業力のさらなる向上

II. 公開方法

■ 公開時期

[今年度]

前期	6月17日(月)～7月5日(金) 一般的には第10回目～12回目の授業
後期	11月25日(月)～12月13日(金) 一般的には第10回目～12回目の授業

■ 公開について

- ① 「公開免除の規定」により免除されない限り、全ての自身の授業を公開する。
- ② 参観者から事前の連絡が欲しい場合、注意事項がある場合、特別な理由などにより非公開の場合は、その旨をグループウェア上にあるスケジュールの「メモ欄」に記入する。
- ③ 上記②の記入は当該授業日の3日前までに行う。
- ④ 参観者があった場合は、公開期間終了後に参観者名簿を教務部設置の提出BOXに提出する。

■ 参観について

- ① 期間中の参観を任意とする。
- ② 参観1回につき研修会参加1回分としてカウントする。
※参観の有無(回数)は提出された参観者名簿より、学園教育充実研究会が集計する。
- ③ 参観する際には、参観者名簿に記帳し、授業終了後には、感想用紙を授業担当者に提出する。
- ④ 参観は授業開始から終了までを原則とするが、2時限連続の授業等においては1時限分のみでも可とする。

III. 全授業参観者数

	大学教員	短大教員	合計
前期	8	10	18
後期	15	5	20
計	23	15	38

Ⅱ 学園教育充実研究会 [大会]

「学園教育充実研究会」は、昭和44年(1969年)、教育力の向上と教職員の相互連携を目的として、故 関口富左名誉学園長によって発案され、以来半世紀以上に渡って、教職員が互いに学園の教育充実のために研鑽を積み重ねてきたという、長い歴史を持った研究会である。

今年度の大会は、数理・データサイエンス・AI教育推進委員会の協力のもと「AI時代における高等教育の取り組みと可能性」をテーマにした。AIが高等教育でどのように活用されて学生の学修体験を豊かにするのか、高等教育の現場でのAI活用のあり方や可能性について、創価大学経営学部准教授でウィーン経済経営大学暗号経済研究所客員研究員、計算社会科学会理事の岡田勇先生の基調講演を拝聴しました。その後FD部門とSD部門に分かれ、FD部門では本学のAIの取り組みについて、大学生生活学科の長田城治准教授と短大地域創成学科の山口猛准教授の2名の先生方に事例発表、SD部門は事務職員の能力向上を図るため、熊田敦也総務部長より私立学校法の改正について、薄信男経理部長より学校法人会計基準についての説明がそれぞれ行われた。

■日時 2025年2月21日(金) 13:00~16:10

■場所 建学記念講堂小ホール

■参加者 FD部門 : 大学教員 29名 短大教員 35名

SD部門 : 事務局職員 (高校事務局を含む) 34名 計 98名

■テーマ 「AI時代における高等教育の取り組みと可能性」

【第60回 学園教育充実研究会 大会プログラム】

企 画	時 間	内 容
開会式	13:00~13:10	1. 学園長挨拶 2. 学園教育充実研究会主任挨拶 3. 研修の概要説明
第1部 基調講演 協力:数理・データサイ エンス・AI教育推進委 員会	13:15~14:45	演 題 「AIが社会や教育に与える影響」 講 師 岡田 勇 准教授(創価大学経営学部)
第2部 FD・SD部門別研修会	14:55~15:55	【FD部門】 「本学におけるAIの活用事例」 ・「授業:ビジネスマナー」における活用事例 講 師:山口 猛 准教授(地域創成学科) ・「教員業務」における活用事例 講 師:長田城治 准教授(生活科学科) ・「質疑応答および座談会」 登壇者 岡田 勇 准教授(創価大学経営学部) 山口 猛 准教授(地域創成学科) 長田 城治准教授(生活科学科) 司 会 柴田 卓 准教授(幼児教育学科) 【SD部門】 「事務職員の能力向上」 ・「私立学校法の改正について」 講 師:総務部長 熊田敦也 ・「学校法人会計基準について」 講 師:経理部長 薄 信男
閉会式	16:00~16:10	講評 斎藤 美保子 短期大学部 副学長

■実施内容

●開会式 13:00~13:10 建学記念講堂小ホール



【関口学園長 挨拶】



【学園教育充実研究会主任 挨拶】

●第1部 基調講演 13:15~14:45 建学記念講堂小ホール

演題 「AIが社会や教育に与える影響」

講師 岡田 勇 准教授(創価大学経営学部)



●第2部 FD・SD部門別研修会 14:55~15:55

【FD部門】「本学におけるAIの活用事例」 建学記念講堂小ホール

・「授業:ビジネスマナー」における活用事例 講師:山口 猛 准教授(地域創成学科)



・「教員業務」における活用事例 講師：長田城治 准教授（生活科学科）



・「質疑応答および座談会」

登壇者 岡田 勇 准教授（創価大学経営学部）

山口 猛 准教授（地域創成学科）

長田 城治 准教授（生活科学科）

司会 柴田 卓 准教授（幼児教育学科）



【活発に行われた質疑応答】

【SD部門】「事務職員の能力向上」創学館2階521教室

・「私立学校法の改正について」講師：総務部長 熊田敦也

令和7年4月1日に実施される改正私立学校法について、文科省がホームページで公表している資料により、その趣旨・概要・主なポイントを紹介した。それによって変更する本学園寄付行為の主な部分を知ること、理事会・理事および評議員会・評議員の役割について学んだ。

・「学校法人会計基準について」講師：経理部長 薄 信男

文部科学省高等教育局私学部より令和5年9月に発出された「学校法人会計基準について」を資料とし、学校法人会計に関する基本的な知識を学び、高等教育機関を取り巻く厳しい環境の中で、財務の健全性と信頼性を維持することの大切さを経理担当の職員だけでなく、職場で働くすべての職員が自身の業務と関連付けながら学んだ。



●閉会式 16:00~16:10 建学記念講堂小ホール

講評

斎藤 美保子 短大副学長



【第60回学園教育充実研究会 大会 参加者アンケート結果】

入力期間:令和7年2月25日(火)~令和7年3月21日(金)

対象人数:全体 137人 回答人数105人[76%] 未回答人数32人[24%]

設問 1 第60回学園教育充実研究会「AI時代における高等教育の取り組みと可能性」に参加しましたか?

[参加した]	79人	75.2%
[参加しなかった]	26人	24.8%

設問 2 総合的に見て第60回学園教育充実研究会のテーマや内容はどうでしたか?(参加者のみ回答)

[有益だった]	59人	75.2%
[やや有益だった]	16人	24.8%
[やや有益でなかった]	3人	3.8%
[有益でなかった]	1人	1.3%

設問 3 第60回学園教育充実研究会のテーマや内容についての感想・質問・改善策等がありましたらご記入ください。

【回答数27名】

- AIの一般論と言ってもよい内容で、目新しさや実用性に乏しい内容であった。そのなかで、長田先生の講演は、ご自身の具体的な活用例であったため、分かりやすかった。
- AIを取り巻く2025年現在の状況がわかってよかった。
- SDの研修会に参加したが、経理部長・総務部長の講義が大変よかった。教員の皆さんにも聞いてほしいと思った。
- 事前配布資料の充実。
- AIのテーマは良かったです。
- 生成AIに関する講師の話が面白かった。
- 特にSDのテーマが良かったと思います。講演をお聞きして大変勉強になりました。これから学園の進むべき方向性について、一人ひとりが真剣に考えていかなければならないと改めて思いました。国の方針、大学の在り方などを理解することで、日々の業務への取り組み方、考え方が変わってくるのではないかと思います。少しずつでも、できることから始めていきたいと思います。
- みなさん真面目に聞いていてよかったです。
- 今後も講演の実施をしてほしいです。ディスカッションより参加しやすいです。学びも大変多いです。
- AIが教官の片腕となることは、将来の姿の1つとして期待したい。
- 社会の変化に応じた研修内容で学びを深めることができました。私学が残っていくためにも、最先端な教育が必要であると思うので、高校の先生方にも参加してほしいです。
- もう少し時間が短縮できたらと思います。
- これからの大学教育が直面する問題を的確に把握し、それに答えることができる講師を選定し、本学の俊秀の実践例を示したことは、今後の教育活動に大きな参考となった。時宜を得たテーマを選択した研究会委員の皆さんの労を多としたい。ご苦勞様でした。
- 発表内容はわかりやすかった。今後どうすべきか深く考えさせられた。
- 実際にAIを授業等で活用している方々の事例を聞いて良かった。
- AIについて身近に感じることができ、自分でも使ってみようと思えた。
- 3人の先生方によるさまざまな方向からのお話により、AIの大枠を改めて理解することができた。

質問力はどのような状況でも必要で、試されるのだと感じた。どこにいても行動が録画され、情報の授受は記録として残る、ということに鈍感になり慣れたくないと思う反面、社会生活を送る上では避けられない過渡期でもあるのだと再認識した。

- とても勉強になりました。今後、AIを使いこなすために有料版の年会費等、研究費で申請することは可能なのでしょうか？
- AIを活用した事例が多く紹介されていて、大変勉強になりました。
- 大変充実しており、内容も今後に向けての示唆に富み興味深かったですし、勉強になりました。企画された皆様、講師の先生方に感謝します。
- 業務における具体的な使用事例の紹介や出席者が生成AIを操作する機会があれば、本学の利用率や業務効率化にお貢献できるように思います。今後、そのような講習があれば良いと思いました。
- AIについて少し深く考えるきっかけになりました。
- 辞宜にかなったテーマであった。
- FDとSDのどらの内容を聴講するかを選べるとよかったですと思います。
- 学園全体として、そして全教職員の自主的・能動的な取り組みとして是非継続していただきたい

設問 5 学園教育充実研究会の開催時期についてはどうでしたか？

[とても良かった]	25人	23.8%
[良かった]	47人	44.8%
[良くなかった]	10人	9.5%
[まったくよくなかった]	1人	0.9%
[未回答]	22人	21.0%

設問 6 今後、学園教育充実研究会で取り上げたい研修内容等がありましたらお書きください。

【回答数17人】

- 高等教育における働き方改革 大学の教員業務のスタンダード
- 学部名の変更、海外の大学での単位取得と国際交流、生活文化博物館における日本文化の発信、等、本学の取組についても、全学で共通理解を得るような機会が必要ではないでしょうか。
- 他大学での人事評価制度。
- 就職支援, 卒前卒後の一貫教育, コミュニケーション能力の開発。
- 若手教職員が育つ職場の在りよう。
- 学園の深刻な経営状況に関して、教員ももっと情報共有すべきである、と思う。
- 今後も継続し開催してください。
- 研究教育実践例報告。
- AIに関する内容が良いです。
- 情報流通プラットフォーム対処法。
- 私は第二部をFD部門に参加させていただきました。先生方の事例発表が拝聴できとても充実した時間となりました。しかし、SD部門の講話も是非、拝聴させていただきたかったです。
- 外部講師の先生方で、先端の内容、情報をいただけるものがよいです。
- 外部コンサルタントによる、「こんな時代でも、入学定員を確保し、生き残っている大学の事例と、本学が行わなければならない対策について」。
- これからの教育に求められるもの。
- 学生確保と財務状況における学園の極めて厳しい現状とそれを克服しなければならないことを学園全体が認識するために。

Ⅲ 各種研修会

本学では、平成24年度から「各種研修会」を導入し、徐々に実施回数を増やすなどの試みを重ねてきた。

平成26年度からは、研修開催主体の他部署・委員会への開放や、年間参加回数ガイドラインの導入を行っている。

日程	タイトル および 講演者	主催	出席(人)
1 5/16	2024年度 第1回 大学・食物栄養学科 学科セミナー 「アミノ酸の機能性」 食物栄養学科 教授 水野時子氏	大学 食物栄養学科	21
2 8/22	令和6年度ハラスメント防止研修会 「学園全体におけるハラスメント防止について」 クレイス法律事務所 阿部 亜巳 氏	ハラスメント防止委員会	59
3 8/24	市民講座「暮らしの1ページ」 教育「福島県立矢吹原修錬農場創立期の 教育理念とその現実」 生活科学科 教授 野口 周一 氏 福祉「はじめてみませんか『人生会議(ACP)』 -最後まで自分らしく生きるために-」 生活科学科 教授 島野 光正 氏 建築「地震と建築物 -地震災害を考える-」 生活科学科 助教 高橋 真里 氏	大学 生活科学科	19
4 8/1- 9/8	学内科研費説明会(資料熟読) 「科研費について」(教務部) 「研究倫理教育受講(事例読む)」(不正防止委員会)	教務部・不正防止員会 共催	45
5 9/25	教職員に対する心の健康問題に関する研修会 「-向き合う/備える/つながる- 揺れる時代を生きる私たちへのメンタルヘルス」 独立行政法人・労働者健康安全機構・福島産業保健総合支援 センター・メンタルヘルス対策促進員 茶谷 穰治 氏	衛生委員会 主催	36
6 9/26	FD/SD研修会 「Start upセミナー ～アイデアをカタチにする企業のいろは～」 講演① 「企業に向けたファーストステップ」中小企業診断士 相馬由寛氏 講演② 「ローカルから世界を目指す起業家の頭の中」 株式会社Kokage代表取締役 大島草太氏	学園教育充実研究会・ 福島県 共催	28
7 11/27	2024年度 第2回 大学・食物栄養学科 学科セミナー 「ルワンダにおける児童参加型保育教育の試み -災害多発地域を中心とした国際プロジェクト ×児童参加型の保育教育の展開-」 幼児教育学科 山脇 功次 講師 食物栄養学科 岡部 聡子 教授	大学 食物栄養学科	28
8 12/16	SD研修会 「スポーツ栄養研究所」とのコラボによる事務局職員健康改善 研修会～デスクワークに疲れたあなたの体を再活性化!～ 食物栄養学科 諏訪 雅貴准教授 (郡山女子大学スポーツ栄養研究所 副所長)	学園教育充実研究会・ スポーツ栄養研究所 共催	19

日程		タイトル および 講演者	主催	出席(人)
9	2/20	令和6年度 障がい学生支援研修会 「私立大学・短期大学における障がい学生支援」 育英短期大学教授・本学非常勤講師 栗山 宣夫氏	障がい学生支援委員会・ 学生生活部 共催	45
10	2/26	2024年度 第3回 大学・食物栄養学科 学科セミナー 「現在の取り組みについて ～花酵母の探索と管理栄養士用生成AI～」 食物栄養学科 講師 梅影 創氏	大学 食物栄養学科	21
11	3/6	令和6年度 第1回スポーツ栄養セミナー 「スポーツと栄養」 公立藤田総合病院 管理栄養士 酒井 有理子氏	スポーツ栄養研究所	19
12	3/26	SD研修会 業務に活用できる生成AI講習会 「AIが社会や教育に与える影響」 株式会社 エフコム 増戸拓也 氏 土屋百恵 氏	学園教育充実研究会	17
13	3/26	令和5年度 郡山女子大学短期大学部 幼児教育学科セミナー 第一部「北欧保育調査報告2025 ～ノルウェー・イギリスの保育～」 幼児教育学科 講師 深谷悠里絵氏 / 准教授 柴田卓氏 「園庭の魅力と可能性を再考する」 園庭研究所代表 石田佳織氏 第二部「現役保育者との交流～保育現場の今～」	短大 幼児教育学科	14
	総計			371

各種研修会 [報告]

1. 2024年度 第1回 大学・食物栄養学科 学科セミナー

アミノ酸は、たんぱく質の構成成分(栄養機能)としてだけではなく、呈味成分(呈味機能)、生理機能成分(生理機能)として多方面で私たちの生活に貢献している。

[栄養機能性]ヒトでは、9種のアミノ酸が体内で合成できず食事から摂取しなければならない必須アミノ酸(不可欠アミノ酸)である。

[呈味機能]ほとんどのたんぱく質は無味であるが、たんぱく質が分解されて生じる遊離のアミノ酸とペプチドは味を呈する。みそ、しょうゆ、魚醤、ハム・チーズなどは、熟成過程でたんぱく質が分解され遊離アミノ酸が増加する。また、トマトは熟すにつれ旨味系アミノ酸であるグルタミン酸が急激に増加する。

[生理機能]近年、アミノ酸が健康の維持・回復をサポートする機能があると報告されている。特に、 γ -アミノ酪酸(GABA)の精神安定作用・血圧上昇抑制作用等の他、オルニチン、グルタミン、アルギニン、グリシン、分岐鎖アミノ酸(BCAA)等の機能性が報告され、それらを含んだ商品も多く販売されている。

そこで今回は、これまでに分析・報告した食品中のGABA分析結果等を含めてアミノ酸の機能性を紹介した。今回のセミナーでは、これらのことなどについて紹介しました。

- 主催
大学 家政学部 食物栄養学科
- 日程
令和6年5月16日(木) 16:20~17:20
- 会場
創学館3階 533教室
- 講師
水野 時子 教授
(郡山女子大学・家政学部・食物栄養学科)
- 演題
「アミノ酸の機能性」
- 出席者数
大学 15名、短大 4名、事務局 2名 計21名
- 実施内容
(1)アミノ酸の栄養機能
(2)アミノ酸の呈味機能
(3)アミノ酸の生理機能
(4)食品を中心としたアミノ酸分析



2. 令和6年度 ハラスメント防止研修会

学校法人郡山開成学園は、すべての学生・生徒および教職員等が対等な個人として尊重され、ハラスメントを受けることなく修学または就労することができるよう十分な配慮と必要な措置を取ることを宣言しており、この目的を達成するため本学園は人権に関する法令に従って学園内における多様なハラスメントの防止に努めることとしている。

その一環として例年研修会を実施しているが、令和3(2021)年度からコロナ禍のため対面での研修ができずオンライン研修としていたが、本年度は講師をお招きして直接講話を拝聴する形で研修会を開催することができた。講師は令和2年度と同様に本学園顧問弁護士法人所属の阿部先生に依頼し、前回よりさらに踏み込んだ内容で話していただき大変有意義な研修となった。

■ 主催

ハラスメント防止委員会

■ 日程

令和6年8月22日(木) 15:00~16:00

■ 会場

創学館2階 521 教室

■ 講師

阿部 亜巳 氏(弁護士法人 クレイス法律事務所 弁護士)

■ テーマ

「アカデミック・ハラスメントの防止について」

■ 実施内容

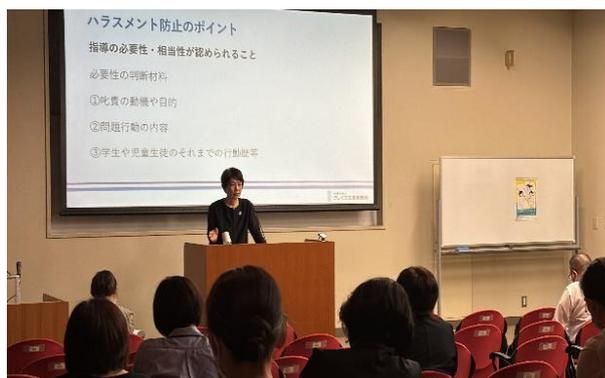
1. アカデミック・ハラスメント、パワハラ、セクハラの定義
2. 教育機関におけるハラスメント
3. 加害者の法的責任
4. ハラスメント防止のポイント
5. ハラスメントが起きやすい場面

■ 出席者数

大学 19名、短大 20名、附属高校 3名、附属幼稚園 1名、家庭寮 1名、事務局 15名 計 59名

■ アンケート回答(終了後、Webアンケート実施、回答率89%)

- 「とても役に立つと思う」38名、「少しは役に立つ」14名、「普通」1名
- ・分かりやすい説明で良かった。継続的に学ぶ必要があると考えている。
 - ・具体例を交えてお話いただいたので、あらためて自分の言動を見直すきっかけとなった。
 - ・ハラスメントと認識しておらず、ハラスメント行為に繋がっていることが多いと感じる。
 - ・学生生徒と離れている間(夏期休業中)に自分事として振り返ることができてよかったと思う。
 - ・教員間の事例・判例を聞きたい。
 - ・もう少し多くの職員に聞いてほしかった。そして考えて欲しかった。
 - ・今後もアカデミック・ハラスメントに関する最新の判例を知らせて下さい。わが身を律する参考になります。



3. 市民講座「暮らしの1ページ」

生活科学科主催による市民講座兼研修会「暮らしの1ページ」を開催した。本講座は、福祉・建築・教育の各分野において、市民の暮らしをより豊かにすることを目的とし、毎年実施している。

今回は三部構成とし、第一部では野口先生による「福島県立矢吹原修練農場創立期の教育理念とその現実」、第二部では島野先生による「はじめてみませんか『人生会議(ACP)』～最期まで自分らしく生きるために～」、第三部では高橋先生による「地震と建築物～地震災害を考える～」の講演が行われた。

当日は、一般聴講者を含め約30名が参加し、生活科学科教員の専門性を活かした研究成果が共有された。

- 主催
大学 家政学部 生活科学科
- 日程
令和6年8月24日(土) 13:00～15:30
- 会場
創学館 3階 531教室
- 講師
野口 周一 教授、島野 光正 准教授、高橋 真里 助教(郡山女子大学 家政学部 生活科学科)
- 出席者数
大学 18名、短大 0名、事務局 1名 計19名
- 実施内容
第一部「福島県立矢吹原修練農場創立期の教育理念とその現実」(野口教授)
第二部「はじめてみませんか『人生会議(ACP)』～最期まで自分らしく生きるために～」(島野教授)
第三部「地震と建築物～地震災害を考える～」(高橋助教)



4. 学内科研費説明会 (Web)

科学研究費助成事業(科研費)について、日本学術振興会・文部科学省より発信された資料をもとに、令和7年度公募の科研費申請書の変更点や近年の動向をまとめ、回覧板を用いて学内での科研費説明会を実施した。これは、例年同様に不正防止委員会と共催での開催であり、併せて研究倫理教育を行った。

今年度は特に、不正を行った研究者の氏名を公表する可能性があることなど、ますます科研倫理の厳正なる周知が求められているものとなっている。研究倫理教育については、文部科学省のホームページに掲載されている「令和元年度～令和5年度」の研究不正事例を熟読することで対応した。

■ 主催

教務部・不正防止委員会

■ 日程

令和6年8月1日(木)～9月8日(日)

■ 会場

回覧板上

■ 視聴者数

大学 14名、短大 21名、事務局 10名 計45名

■ 実施内容(ファイル管理掲載資料)

(1) 科学研究費助成事業(科研費)について

(2) 令和7(2025)年度公募について

(3) 科学研究費助成事業(科研費)の適正な管理等について

(4) 「researchmap」及び「プレプリントサーバについて

(5) 科研費電子申請システムの操作方法についてー応募にあたってー

(6) 学術振興会・文部科学省合同開催説明会の資料について

(7) 「令和元年度～令和5年度」の研究不正事例について(文科省ホームページより)

5. 2024 年度 こころの健康づくり研修会

大学等の教員におけるメンタルヘルスケアを中心に講演をして頂きました。

〔事例その1〕勤務継続中に、うつ病を発症した大学教員の1例。うつの発症と、うつからの回復。

〔事例その2〕『「よわいはつよい」プロジェクト』。日本ラグビーフットボール選手会によるメンタルヘルスの取り組み。

〔事例その3〕元日本代表・女子バレーボール・キャプテンを務めた益子直美さんが「監督が怒ってはいけない」バレーボール大会を主催。

おおらかで人に寛容だった時代に戻ることは難しいが、お互いがストレスで消耗しないためにも、価値観、利害を共有していない人も共生していく知恵をさぐっていききたい。

人手不足時代において勤労者の療養や育児、介護と仕事の両立は社会的命題。両立を前提として組織や働き方をトランスフォームしていくのは現実的な話だ。

“フェーズフリーなメンタルヘルス”とは？

平常時の健康やウェルビーイングに加え、危機においても破綻せず、乗り越え、立ち直る心。

つまりレジリエンスを高めるといふことか。

今回の研修会では、これらのことなどについて紹介しました。

■ 主催

衛生委員会

■ 日程

令和6年9月25日(水) 16:20~17:20

■ 会場

創学館2階 521教室

■ 講師

茶谷 穰治 氏

(メンタルヘルス対策促進員・独立行政法人・労働者健康安全機構・福島産業保健総合支援センター)

■ 演題

「 - 向き合う/備える/つながる - 揺れる時代を生きる私たちへのメンタルヘルス」

■ 出席者数

大学 14名、短大 8名、事務局 13名 幼稚園 1名 計36名

■ 実施内容

PDFで作成したスライドを映写しながら、講演を行いました。

質疑応答は特にありませんでした。



6. 2024年度 FD/SD 研修会

「Start upセミナー～アイデアをカタチにする起業のいろは～」

学園教育充実研究会FD・SD部門研修会を、福島県主催、公益財団法人福島県産業振興センター（テクノコム）が企画・運営し、表題の研修会を実施しました。大学における知見を社会に還元する「大学発起業の推進」を福島県は推進しております。研究のアイデアをカタチにする起業のいろはの視点で、Start upセミナーと題し、2つの講演を行いました。当日は28名の参加者が集いました。

- 主催
福島県・学園教育充実研究会 共催
- 日程
令和6年9月26日(木) 16:20~17:30
- 会場
創学館2階 531教室
- 講師
相馬 由寛 氏(中小企業診断士)
大島 草太 氏(株式会社 Kokage 代表取締役)
- 出席者数
大学 12名、短大 8名、事務局 8名 計28名
- 実施内容
講演①「企業に向けたファーストステップ」 相馬由寛氏
講演②「ローカルから世界を目指す起業家の頭の中」 大島草太氏

自己紹介



相馬由寛 (そうまよしひろ)
中小企業診断士
福島駅西口インキュベーションルーム インキュベーションマネージャー
(株) 福島まちづくりセンター チャレンジショップアドバイザー
中小企業基盤整備機構東北本部 中小企業アドバイザー

2001年3月 福島大学行政社会学部・行政学科卒業
2001年4月 福島商工会議所入所
街づくり、経営支援業務を14年間経験

2015年3月 グロービス経営大学院 修了(MBA)、福島商工会議所 退職
2015年4月 中小企業診断士として独立開業後、現職に就任

震災後は、福島ひまわり親親プロジェクトメンバー(NPO法人チームふくしま理事)として復興支援の活動を展開

株式会社Kokage



代表取締役
大島 草太 (おおしま そうた)

1996.7 生まれ 栃木県宇都宮市出身
2015.3 栃木県立石橋高等学校卒業
2015.4 福島大学人間発達文化学類入学、川内村と出会う
2017.4 一年間休学し、カナダで就労、風評被害の現状を体感
2019.3 「Kokage Kitchen」開業
2019.11 在学中に田村市で「地域おこし協力隊」就任
2020.3 福島大学卒業 (小学校教諭、特別支援教諭免許取得)
2020.11 「地域おこし協力隊」を退職、「株式会社ホップジャパン」へ入社
2022.12 「Kokage Kitchen」を法人化し「株式会社Kokage」設立
2023.7 「株式会社ホップジャパン」退社、独立。蒸溜事業naturadistill開始。



(じゃらん.netより引用)

7. 2024 年度 第 2 回 大学・食物栄養学科 学科セミナー

表題である「ルワンダにおける児童参加型保健教育の試み」は、クリエイティブヘルス健康教育事業として実施している児童向けのプログラムである。

本研究は、福島県立医科大学、郡山女子大学、そして鹿児島大学が共同で行っている国際研究である。

今回は、ルワンダにおける実践報告を行った。

一番目の演者は山脇功次先生(郡山女子大学・短期大学部・幼児教育学科・講師)であった。ルワンダの紹介から始まり、どうしてこの国とのプログラムを試行したのか、それ以前に福島県の小学生を対象としたコアプログラムはどのようなものだったのか、と非常に分かりやすく講義して頂いた。今回は、クリエイティブヘルス(特にBODYプログラム)について紹介と説明をして頂いた。

二番目の演者は岡部聡子先生であり、当学科の特色である栄養教育に始まり、保健教育や食品、調理などと幅広く、かつ要点を抑えた取り組みについて紹介した。

今回のセミナーでは、これらのことなどについて紹介した。

- 主催
大学 家政学部 食物栄養学科
- 日程
令和6年11月27日(木) 16:20~17:20
- 会場
創学館3階 533教室
- 講師
山脇 功次 講師(郡山女子大学・短期大学部・幼児教育学科)
岡部 聡子 教授(郡山女子大学・家政学部・食物栄養学科)
- 演題
「ルワンダにおける児童参加型保健教育の試み」
- 出席者数
大学 18名、短大 7名、事務局 3名 計28名
- 実施内容
(1) 児童向けプログラムの紹介と説明
(2) クリエイティブヘルス(特に FOOD プログラム)の紹介と説明
(3) 現場での食育や栄養教育、保健活動などの説明と今後の課題
(4) 食事情や食意識の分析と今後の対応策



8. 「スポーツ栄養研究所」との連携による事務職員健康改善研修会【SD部門】

事務局職員は長時間のデスクワークに携わることが多く、肩こり・腰痛あるいはそれらに関連して消化器官・自律神経の変調などにも悩まされる者が少なくないのが現状である。そこで、郡山女子大学スポーツ栄養研究所と連携して、簡単なストレッチと解説等を受講し身体の再活性化を図る研修会を行った。

■ 主催

郡山女子大学スポーツ栄養研究所・学園教育充実研究会SD部門の共催

■ 日程

令和6年12月16日(月) 16:20~17:10

■ 会場

83年館5階 スポーツ栄養研究所

■ 講師

諏訪 雅貴 准教授(郡山女子大学スポーツ栄養研究所 副所長・郡山女子大学)

■ 参加者数

大学 5名、短大 1名、事務局 13名 計19名

■ 実施内容

その場で出来る軽い筋トレ、リラクゼーションの講義を実施した。気軽に出来て、毎日続けられるような簡単なストレッチのやり方を皆で楽しく実践できた。ささやかながら、教員と事務局職員が「共に教え合い、学び合う」という本学の学園教育充実研究会の伝統の一端も実践できた。



9. 令和6年度障がい学生支援研修会「大学における合理的配慮—事例検討を中心に—」

本学では、令和4年度より障がい学生支援室ペルルを設置し、障がい学生が安心して学校生活を送り、学修できる環境を少しずつ整えてきているところである。最近、学生が入学後に知的障がいの有していることが判明するケースがあり、高等教育機関においては想定外であった知的障がい学生への指導が課題となっている。そこで、今年度は、本学と同じ私立大学において障がい学生支援に長年取り組んで来られ、知的障がい学生の支援経験もお持ちの栗山宣夫先生をお招きして、具体的な障がい学生支援の事例を通して、本学が今後取るべき方向性について示唆をいただいた。

■ 主催

障がい学生支援委員会・学生生活部

■ 日程

令和7年2月20日(木) 13:00~15:00

■ 会場

創学館2階 521講義室

■ 講師

栗山 宣夫氏(育英短期大学教授・本学非常勤講師)

■ 出席者数

大学 20名、短大 18名、事務局 7名 計45名

■ 実施内容(配布資料より抜粋)

障がいのある学生数の推移／障がいとは／

前提として(1) 障害者差別解消法 (2) 過重な負担にならない範囲とは (3) 建設的な対話
学生の困り感、相談の種類

知的障がいのある学生を受け入れる前提として(1) 大学学士課程とは (2) 短期大学とは
知的障がいのある学生の学修と支援の事例

知的障がいのある学生への合理的配慮例—文科省障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針

発達障がいのある学生の学修と支援の事例

精神疾患のある学生への合理的配慮の事例

病気の学生への合理的配慮の事例

肢体不自由の学生への合理的配慮の事例

その他、支援の手続き・手順など



10. 2024 年度 第 3 回 大学・食物栄養学科 学科セミナー

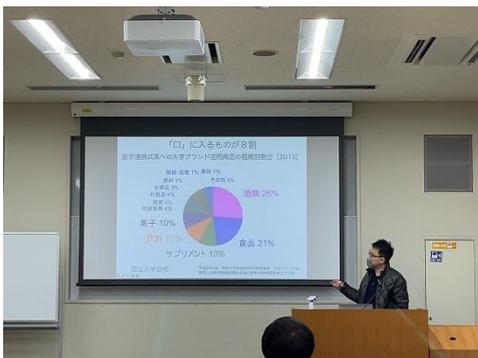
表題である「現在の取り組みについて～花酵母の探索と管理栄養士用生成AI～」は、今回の演者である梅影先生が本学園赴任後に取り組んでいることについての報告である。

一つ目は、「大学ブランド食品の開発に向けた有用酵母の探索」についてであった。本学独自のストーリー性のあるブランド食品(発酵食品など)の開発につなげたいと考えている、と抱負を述べられました。

二つ目は、「管理栄養士国家試験対策用生成AIの開発」についてであった。生成AIは管理栄養士国家試験において合格点にまで到達できることは既に示されているが、満点を取れるわけではない。また、教育補助ツールとしても満足のいくものではない。現在の大規模言語モデルに管理栄養士国家試験に必要な情報を加え、管理栄養士国家試験に特化した生成AIの開発を進めている、と報告されました。

今回のセミナーでは、これらのことなどについて紹介した。

- 主催
大学 家政学部 食物栄養学科
- 日程
令和7年2月26日(水) 16:20～17:20
- 会場
創学館3階 533教室
- 講師
梅影 創 先生(郡山女子大学・家政学部・食物栄養学科 講師)
- 演題
「現在の取り組みについて～花酵母の探索と管理栄養士用生成AI～」
- 出席者数
大学 16名、短大 3名、事務局 2名 計21名
- 実施内容
 - (1) 有用酵母の探索
 - (2) 学園ブランド食品(発酵食品など)の開発
 - (3) 管理栄養士国家試験対策用生成 AI の開発
 - (4) 学部生における AI の活用法と今後の課題



11. 令和6年度第1回スポーツ栄養セミナー

令和5年度にスポーツ栄養研究所が設立され、2年目が経過し、初めてスポーツ栄養研究所主催のスポーツ栄養セミナーを実施しました。スポーツ栄養の分野は、学生からの関心が高く、管理栄養士資格を基礎として成り立つ奥深い領域です。今回は、福島県初の公認スポーツ栄養士である酒井有理子先生（公立藤田総合病院）を講師にお招きし、「スポーツと栄養」について講演いただきました。

- 主催
スポーツ栄養研究所
- 日程
令和7年3月6日(木)16:20~18:00
- 会場
創学館 3階 531教室
- 講師
酒井 有理子先生（公立藤田総合病院 管理栄養士・公認スポーツ栄養士）
- 出席者数
大学 15名、短大 2名、事務局 2名 学生・社会人18人 計 37名(教職員19名、その他18名)
- 実施内容
 - (1) 自己紹介
 - (2) Jspo 公認スポーツ栄養士の役割と取得方法
 - (3) 現在の活動内容
 - (4) スポーツ栄養マネジメント
 - (5) 栄養補給方法と栄養教育の実際



12. 「業務に活用できる生成 AI 講習会(実践)」【SD部門】

近年、生成AIの受容が高まっていることに伴い様々な研修が行われている。先日(令和7年2月)、学園教育充実研究会主催による第60回目の研修会では、「AIが社会や教育に与える影響」をテーマに全大会が開催された。それに伴い、さらに生成AIについて詳しい理解を深められるよう、第2弾として、事務局職員を対象者とする研修を企画した。実際にPCを操作しながら生成AIの様々な機能、基本操作を学び職員同士が理解を深め合うと同時に、コミュニケーションを図る機会にもなった。

参加者からの事後アンケートでは、ほとんどの方が、「生成AIを初めて使用した」と回答しており、多くの方から「満足の内容だった」との評価をいただいた。メールの文章作成、ホームページの要約等、実践しやすい方法の照会もあったので、業務への応用にも利用できるとの意見も多くあった。

今回は短い時間での研修であったので、次回以降AIに関する研修を行う際には、業務で使用するソフト(Word、Excel等)と組み合わせた、より高度な研修を企画したいと考える。

■ 主催

学園教育充実研究会 SD部門

■ 日程

令和7年3月26日(水) 15:00~16:00

■ 会場

創学館62年館2階 ラーニングコモンズⅡ

■ 講師

増戸拓也 氏(株式会社エフコム)

土屋百恵 氏(株式会社エフコム)

■ 演題

「AIが社会や教育に与える影響」

■ 出席者数

事務局 17名 計17名

■ 実施内容(抜粋)

- ・講師紹介
- ・生成AIの概要説明
- ・生成AIを使用する際の注意点とセキュリティ
- ・Google Geminiの機能説明
- ・Google Geminiの基本操作の説明
- ・実習①「プロンプトの入力(テーマを与えて文章を生成)」
- ・実習②「プロンプトの応用(生成された文章に対して指示を行う)」
- ・Google Geminiの業務活用事例の紹介(例:メールひな型の作成等)
- ・まとめ(講座の振り返り)



13. 令和6年度 郡山女子大学短期大学部 幼児教育学科 公開セミナー

令和7年3月26日(水)に令和6年度 郡山女子大学短期大学部 幼児教育学科公開セミナーが対面式で開催された。強風の影響により新幹線が運休となり、講師の石田佳織氏を招聘することはできなかったが、迅速にオンラインに切り替えて、無事に終了することができた。

第1部では、幼児教育学科准教授の柴田より、屋外環境及び健康教育の視点からイギリスおよびノルウェーの保育実践について、報告がなされた。続いて、同講師の深谷より音楽教育の視点からノルウェーの保育事例について、報告がなされた。

また、基調講演では、園庭研究所代表の石田佳織氏より、幼稚園施設整備指針の解説や園庭の質向上のための6観点7ステップに関する説明、園庭ガイドラインの国際比較など、福島県内の保育施設の事例を交えた講演が行われた。

また、第2部の現役保育者との交流会では、市内幼稚園の園長と所有林の活用方法について、議論することができ、大変有意義な会となった。

■ 主催

郡山女子大学短期大学部幼児教育学科

■ 日時

令和7年3月26日(水) 15:00~17:30

■ 場所

郡山女子大学短期大学部83年館3階833教室

■ テーマ

「園庭の魅力と可能性を再考する」報告書

■ 演題・講師

深谷 悠里絵 講師(短期大学部 幼児教育学科)

柴田 卓 准教授(短期大学部 幼児教育学科)

石田 佳織 氏(園庭研究所 代表)

■ 出席者数

大学 1名、短大 13名、その他 3名 計 70名(教職員14名、その他3名)

■ 実施内容

第1部:北欧保育調査報告 2025~ノルウェー・イギリスの保育~

深谷 悠里絵 講師・柴田 卓 准教授

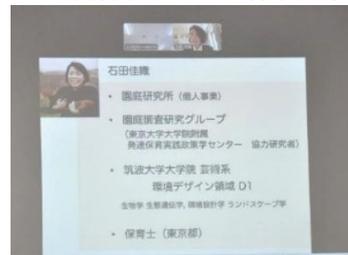
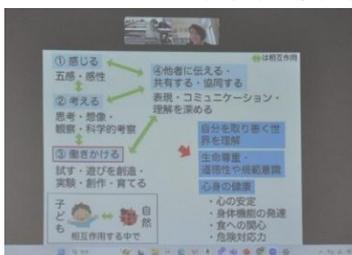
基調講演「園庭の魅力と可能性を再考する」石田 佳織 氏(オンライン)

第2部「現役保育者との交流会~保育現場の今~」

講師や幼児教育学科の教員を囲んでフリートークセッション



イギリス・ノルウェーの保育実践報告(柴田) ノルウェーの保育実践における音楽教育に関する報告(深谷)



オンライン講演会の様子(園庭研究所石田佳織)

IV 事務局職員 外部研修参加記録

事務局職員においては学内研修だけでなく、外部団体主催の研修に参加することがSD活動においても重要である。本年度の各部署の外部団体主催の研修会への参加状況をまとめた。

件名	主催	期日	会場	出席
[総務部]				
1. 統計数理研究所オープンハウス2024 公開講演会	大学共同利用機関法人 情報システム研究機構 統計数理研究所	2024/5/24	オンライン(学内)	1名
2. 「Bizweibinar 大学IR実質化に向けた 基礎・応用・実践」セミナーへの参加	ビズアップ総研	2024/6/11	オンライン(学内)	1名
3. 令和6年度私学共済事務担当者 連絡会	日本私立学校振興・ 共済事業団	2024/7/4	郡山商工会議所 (市内)	1名
4. 上智・関西学院 合同IRワーク ショップへの参加	上智大学・ 関西学院大学	2024/7/6	上智大学四ツ谷 キャンパス (千代田区紀尾井町)	1名
5. 令和6年度私学事業団助成部説明会	日本私立学校振興・ 共済事業団	2024/8/5	上智大学四ツ谷キャン パス(東京都)	1名
6. 令和7年度障害者雇用納付金申告書作 成事務説明会	高齢・障害・求職者雇用 支援機構	2025/2/5	ビッグパレット福島 (市内)	1名
[経理部]				
1. 令和6年度私学事業団助成部説明会	日本私立学校振興・ 共済事業団	2024/8/5	上智大学四ツ谷キ ャンパス(東京都)	1名
[管財部]				
1. ふくしまSDGs博出展	福島民報社	2024/8/10~ 8/11	ビッグパレット ふくしま(市内)	1名
2. 森林自己学習支援事業	ナチュラルライフ スタイル部	2024/8/28	南会津町	1名
3. REIFふくしま2024出展	福島県産業振興センター	2024/10/17 ~10/18	ビッグパレット ふくしま(市内)	1名
[学生生活部]				
1. 学生教育研究災害傷害保険説明会	日本国際教育支援協会	2024/10/30	仙台東京海上日動 ビル(仙台市)	1名

件名	主催	期日	会場	出席
[教務部]				
1.令和6年度科学研究費助成事業等説明会	文科省・日本学術振興会	2024/7/22	オンライン (学内)	1名
2.令和6年度日本私立大学協会東北支部事務研修会	日本私立大学協会東北支部	2024/9/5~ 9/6	ホテルモントレ 仙台(仙台市)	1名
3.研究インテグリティのための「G7バーチャル・アカデミー」ユーザー登録方法説明会	内閣府	2024/11/5	オンライン (学内)	1名
4.「日本の学位・私学等枠組みについて」の説明会	日本私立短期大学協会	2024/12/20	オンライン (学内)	1名
5.令和6年度教職課程認定等に関する事務担当者説明会	文科省総合教育政策局人材政策課	2024/12/25	オンライン (学内)	2名
6.科学研究費助成事業(科研費)に関する説明会	文科省・日本学術振興会	2025/1/28	オンライン (学内)	2名
7.教育の実施状況等の審査に係る説明	大学改革支援・学位授与機構	2025/1/28	オンライン (学内)	1名
[図書館]				
1.第31回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会	福島県内大学図書館連絡協議会	2025/12/20~ 2025/1/24	オンデマンド 配信(図書館)	3名
2.生活文化博物館展示のための見学研修	本学生活文化博物館	2025/2/26~ 2/27	①仙台市美術館 ②カメイ美術館 ③東北大学総合学術博物館 ④郡山市立美術館	1名
[附属高校]				
1.令和6年度第49回福島県私学教育研修会	福島県私立中学高等学校協会	2024/8/22~ 23	ホテルハマツ (市内)	2名
2.福島県私立中学高等学校事務部会総会・研修会	福島県私立中学高等学校事務部会	2025/2/20	穴原温泉山房 月の瀬(福島市)	1名
[今期該当なし] 事務局長、入学事務・広報部、就職部、保健室、学園SD、附属幼稚園・家庭寮				

ひ と こ と

郡山女子大学短期大学部 副学長 齋藤美保子

令和6年度は「コロナ明け」という言葉も聞かれ、感染症を用心しながらも、次第にマスク着用の制限は緩やかになりました。そうしたなか、久々の対面開催という委員会もあり、各種研修会が多様なテーマで13回開かれました。最も参加数の多かったのが夏休み中のハラスメント防止研修会でした。阿部顧問弁護士によるアカデミック・ハラスメントの判例を示しながらの講演は具体的で、59名の教職員の注意を喚起しました。長く教壇に立つ者ほど時代の変化を痛感し、日頃の言動を顧みることになりました。その後、気分も新たに後期に向かうようにと科研費の説明会があり、心の健康問題に関する研修会が開催されました。大学食物栄養学科主催と、発足して間もないスポーツ栄養研究所主催が合計5回で、栄養と健康に関わる研修が活発でした。

第60回学園教育充実研究会(大会)の第一部基調講演での岡田先生の御講演は19世紀の画家ポール・ゴッガンが、死を意識しながら描いた絵画から始まり、大変感慨深かったです。「我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか」という問いは、いつの時代でも深遠な課題ですが、人類はもはや2035年問題に直面しているとのことでした。人間がAIに凌駕されるのではないかと、という不安がいよいよ現実味を帯びてきました。

確かにAIは爆発的に進化しています。生活文化博物館でも、海外から来られる見学者に翻訳アプリを使って意思の疎通を図ることがあります。しかし、1月に来館したハーバード大学の大学院生、国籍も様々な二十代の男女15名は、30分以上スマートフォンを出さずに、簡単な英文の掲示と配布資料、そして、館長や同行の日本人との初歩的な英会話から、あらゆる情報、知識を得ようとしていました。そして仲間同士で話しあい、情報を確かめ共有していました。これぞアカデミックな教育を受けた教養人の学びの態度であろうと、目を見張りました。改めて、AIを駆使することと、対面の機会を最大限に活かそうと感覚を研ぎ澄ます人間力、二つの学びを使い分ける凄さを実感しました。

感性の教育を標榜してきた本学です。AIを使いこなすことと、五感を使った対面の人間的な伝達、どちらの学びも重視していきたいものです。また、心身共に健康で、五感を研ぎ澄ますことによっても、AIに立ち向かう手立てはないようにも思います。

常に学園の教育力を高めていこうとする教育充実研究会の御尽力に、敬意と感謝を呈しつつ、創立80周年を控えた次年度の活動にも、さらに期待しております。

本年度のFD・SD活動を振り返って

学園教育充実研究会 主任 磯部 哲夫

今年度は、本研究会のメインの活動である学園教育充実研究会(大会)が60回を迎えた年度であった。本研究会は、昭和44年(1969年)教育力の向上と教職員の相互連携を目的として、故関口富左名誉学園長によって発案され、以来半世紀以上に渡って、教職員が互いに学園の教育充実のために研鑽を積み重ねてきたという、長い歴史を持った研究会である。

さて、今年度の学園教育充実研究会の主要なFD・SD活動のである(1)授業公開(2)第60回学園教育充実研究会(大会)(3)各種研修会(4)授業評価アンケートについて、それぞれの活動を振り返ってみる。

- (1) 今年度の全授業公開については、前・後期全授業公開を行うとし、前期は6月17日～7月5日、後期は11月25日～12月13日のそれぞれ3週間にわたり実施し、教員間の教育力向上を図った。前・後期の参観者数は延べ38名であった。
- (2) 全教職員が集う第60回学園教育充実研究会(大会)は、数理・データサイエンス・AI教育推進委員会の協力のもと「AI時代における高等教育の取り組みと可能性」をテーマに、外部講師による「AIが社会や教育に与える影響」についての基調講演を行い、その後本学の2名の教員によるAI教育の事例発表を実施した。AIが高等教育でどのように活用されて学生の学修体験を豊かにするのか、高等教育の現場でのAI活用のあり方や可能性について熟考する機会となった。実施後のアンケートにおいて、95%の肯定的評価(有益、やや有益を併せた割合)を獲得した。
- (3) 研修会の実施方法は対面、オンラインのハイブリッドで実施し、昨年度の研修会実施回数12回に対し、今年度は13回開催され、研修会参加の延べ人数は371名であった。また事務職員の外部研修会参加については、各部署において対面、オンラインによる様々な外部研修会の参加し、職能開発を図った。
- (4) 授業評価アンケートについては、今年度も評価点に基づく7段階の教員総合評価を実施した。アンケート結果を基に授業改善についてFD部門の委員と学生の代表が参画するFD活動については、規程に基づき実施し結果を学科主任へ報告した。

以上、4つの今年度の活動に対して、次年度へ向けた改善を下記に示す。

- (1) 研修会については、次年度もオンラインも含めた実施方法で、今年度と同等の実施回数を目指し、研修会の充実を図っていく。
- (2) 学園教育充実研究会(大会)については、今年度の大会後のアンケートを踏まえ、実施時期、実施内容について検討する。
- (3) 各種研修会については、次年度もオンラインも含めた実施方法で、今年度と同等かそれ以上の実施回数を目指し、研修会の充実を図っていく。
- (4) 授業評価アンケート結果を基に授業改善について学生の代表とFD部門の委員で参画するFD活動の実施について、PDCAに基づく確実な実施を図る。ファカルティアワードについては、年度初めの計画を遵守し次年度の実施を目指す。

次年度へ向け、教職員の職能開発、教育活動改善に向けたFD・SD活動の展開について更に検討を重ね改善を図っていききたい。

令和6年度(2024) 学園教育充実研究会委員 (大学・短大部門)

部門	委員	所属
FD 部門	磯部 哲夫 (委員長・FD 部門 主任)	短期大学部 幼児教育学科
	岡部 聡子 (FD 部門 副主任)	大学 家政学部 食物栄養学科
	長田 城治	大学 家政学部 生活科学科
	郡司 尚子	大学 家政学部 食物栄養学科
	澤渡 優喜	短期大学部 健康栄養学科
	柴田 卓	短期大学部 幼児教育学科
	佐々木 達矢	短期大学部 地域創成学科
SD 部門	村田 菜織 (SD 部門 主任)	管財部
	安齋 文明 (SD 部門 副主任)	管財部
	阿部 かおり	教務部
	平野 由香子	経理部
	阿部 真澄	総務部
	小橋 健人	教務部
	古川 京子	高校事務室